

ひゃくじゅ



高麗山 平成28年4月6日撮影

広報誌「ひゃくじゅ」の由来

「ご利用者・職員ともに幸せでありたい」という、大磯幸寿苑の願いが込められています。

～～～ 経営理念 ～～～

「高齢者はすべて我々社会の功労者であり人生の大先輩である」との理念に基づき、幸寿苑は設立されました。加齢による心身の衰えは何人も避けることのできないことであり、それ故に、一層の敬愛の情と細心の注意をもって高齢者に接しなければならないと、私どもは考えております。

少しでも内容豊かな生活をしていただき、一日でも早い家庭復帰と自立ができるよう最善の努力をして参ります。

医療法人社団 幸寿会
介護老人保健施設 大磯幸寿

∞∞∞ コンテンツ ∞∞∞

☆表紙

広報誌「ひゃくじゅ」の由来、経営理念

☆大磯の歴史「8人の宰相が住んだ大磯」

☆健康診断を行いました

☆増床及び改修工事について

☆職員紹介 管理栄養士 堀米葉子

☆役職人事

☆研修報告 介護士 佐藤 亮

☆コラム 医師 金子 靖

☆広報委員の変更について

☆アクセス



【大磯の歴史シリーズ】

八人の宰相が住んだ大磯

明治 18 (1885) 年、松本順が大磯海水浴場を開設しました。明治 20 年には禊龍館が開館、また大磯駅の開業、鉄道の開通も重なり、保養・療養の目的で大磯に多くの著名人が長期滞在や別荘を建築するようになりました。大磯にはなんと 8 人もの宰相が別荘もしくは邸宅を構えたのです。

その 8 人とは・・・伊藤博文、山形有朋、大隈重信、西園寺公望、寺内正毅、原敬、加藤高明)、吉田茂



伊藤博文



山形有朋



大隈重信



西園寺公望



寺内正毅



原 敬



加藤高明



吉田 茂

松本順の人脈から大磯での別荘所有が広まっていきました。明治 17 (1884) 年の政令により華族に列せられた旧公家や大名、明治政府高級官僚などの間に広まり、その後第二期へと続く政治的領袖による別荘建築へと続いていきます。明治 30 年、政界の中心人物である伊藤博文が本籍を大磯に移してからは、伊藤の邸宅・滄浪閣が政治の中心舞台となっていきました。その所以もあり、京浜の名士たちの大磯別荘建

築ラッシュがはじまり、明治 30 年には 100 戸ほどであった別荘が明治 38 年には 160 戸を超え、その後も続々と増え続けました。明治 41 年日本新聞社実施の全国避暑地百選の投票の結果、なんと大磯が第一位となり、大磯駅前に「海内第一避暑地の碑」が建てられる。

(大磯町 isotabi.com より転載)



健康診断を行いました 2月22日(月)

労働安全衛生規則第 44 条による定期健康診断です。健康診断とは、診察および各種の検査(身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・血液検査・尿検査・心電図・胸部X線・診察)と、あわせてストレスチェックシートを提出し、健康状態を評価することで健康の維持や疾患の予防・早期発見に役立てるものです。



増床及び改修工事について

平成 28 年 2 月 8 日から増床工事をおこない施設の療養室改修や外壁塗装等をいたしました。

・ 1 階療養室の個室 8 室を多床室 4 室に、2 階個室 2 室を多床室 1 室にそれぞれ変更しました。

変更内容

	変更前	変更後
1 階 個室	10 室	2 室
多床室	10 室	14 室
床数	50 床	58 床
2 階 個室	10 室	8 室
多床室	10 室	11 室
床数	50 床	52 床



個室 2 室を 1 室 4 床に改修 (パノラマ形式で撮影)

- ・居室変更工事に伴うエアコン増設工事
- ・デスタッフルームを機能訓練室に変更
- ・デイ入口倉庫をデスタッフルームに変更
- ・外壁の部分塗装工事



3月25日県の立ち入り検査があり、4月1日付、認可されました。



工事中は大変ご迷惑をお掛け致しました、ご協力ありがとうございました。

職員紹介

管理栄養士 堀米葉子

平成14年5月の開業から半年後、元神奈川県栄養士会会長の川名管理栄養士より業務を引き継ぎ早13年になります。以前は300床の病院で栄養士として勤務、その病院は重度の認知症病棟（100床）を併設し、そこで咀嚼、嚥下について学ばせていただきました。



当時は、咀嚼・嚥下に対しては手探り状態で、お茶や味噌汁で咽込み、今のようなトロミ剤もほとんど無く、咽ないで食べられ、お茶や汁物を飲むには何をどうすれば良いのか、いつも現場の調理師たちと試行錯誤の毎日でした、また嚥下食も旭松食品のカットグルメ開発担当者と味や食感を検討しいろいろな嚥下食を開発してきました・・・20年以上前の話です。

幸寿苑は実家にも近く、その当時母は元気で一人で生活をしていましたが母のことが心配で、川名管理栄養士から後を引き継いでくれないかと、お話が合ったとき、大磯幸寿苑なら帰りに寄れるからと単純な理由で引き受け、また栄養士として最後の仕事と思い、食を通して何か貢献できるかも知れないと・・・それから

アツという間に13年経ってしまいました。貢献できるどころか、母が亡くなり、心が沈んで落ち込んでいるときも入所者様の笑顔にふれ、また優しい声かけに励まされ今日まで続けられたように思います。

幸寿苑の理念である「高齢者はすべて我々社会の功労者であり人生の大先輩である。」ことはもちろん、より敬愛の精神の持ち主でもあると思います。幸寿苑での生活が、心豊かで穏やかに過ごして頂け、入所者様ご家族の皆様からも、幸寿苑で良かったと思っただけの施設を目指して、日々努力をしてまいりたいと思います。これからも、入所者様個々の栄養状態の維持向上を考慮した喜ばれる献立作り、食べやすい食事作りに日々努力していきたいと思ます。

役職人事について

平成28年4月1日付発令されました。

介護統括・・・佐藤 亮
 1F介護主任・・・深澤勇二
 副主任・・・永瀬 毅
 2F介護主任・・・原 健一
 副主任・・・井上真季

研修報告について

介護士 佐藤 亮

平成27年11月9日から平成28年2月23日の5日間にわたって、神奈川県総合医療会館等を会場として行われた「平成27年度 神奈川県身体拘束廃止推進モデル施設養成研修」に、内田事務長と参加しました。

身体拘束廃止推進モデル施設のねらい

- ・身体拘束廃止の推進に向けて、地域の中核的施設としての役割を担うため、施設見学の受入れや相談等を実施する。
- ・地域の実情を踏まえ、研修や事例検討などの企画・運営を図り、他施設との横の連携を構築する役割を担う。

モデル施設としての要件

【基本原則】

- ・身体拘束廃止の取組を実践していること。

- ・必ずしも現時点で拘束廃止になっていることではなく、施設理念上、身体拘束廃止を推進していること。
- ・組織のトップである施設長や管理者・責任者が「身体拘束廃止」を決意し現場をバックアップする方針を徹底していること。
- ・身体拘束廃止の取組に対して施設全体で議論し、共通の認識を持っていること。

【条件】

- ・施設見学や相談の受入れが可能であること。
- ・「かながわ高齢者あんしん介護推進会議」の部会である「拘束なき介護推進部会」の一員として参加が可能であること。
- ・研修の企画、運営、事例検討会の開催に積極的に取り組むこと。
- ・「身体拘束廃止推進モデル施設養成研修」を受講していること。

モデル施設の活動内容

- ・身体拘束廃止推進施設として、核（リーダー）となり他施設の実習の受入れや身体拘束廃止の普及・啓発や相談並びに研修の企画、運営、事例検討会などを実施する。
- ・各地域における身体拘束廃止に向けた相談・理解の促進等を進める。
- ・上記内容にとどまらず、現状の課題解決に向けた取組みを県・他モデル施設と連携し実践することも可能。

以上について神奈川県がモデル施設に求める要件です。

身体拘束廃止に向けて、当施設の方針

1. トップの決意と方針の徹底
2. 委員会の充実と運営の強化。
3. 職員全員で問題意識の共有
4. 家族への説明と協力依頼
5. 現場実態の把握
6. ケア方法の改善
7. 環境の整備
8. リスクマネジメント

以上の方針をトップ並びに職員一同が一丸となって取り組み、現場をバックアップする態勢を整えていきたいと思っています。

コラム

医師（施設長） 金子 靖

産業医（健康管理医）として

私は公務員の医師を定年まで勤め上げた後、産業医としての経歴が20年間あります、産業医の使命は従業員の健康管理が主体ですが、それとともに重要なのは職場の環境改善が重要な仕事でした、それに加えて特に「快適職場づくり」が叫ばれるようになって来ています、快適職場とはハード面とメンタル面がバランス良い職場即ち「楽しい職場」を言うのです、職場の性質によっていろいろと差があると思いますが、老健の仕事は相手が経験深い高齢者ですから、一般の生産産業とは大変異なるものがあると思います、この難しい毎日の中にあって自分たちの健康を保つ事は勿論、どうやって職場を楽しくするかを、皆と一緒に何時も考えて行きたいと思うのです。



介護老人保健施設 大磯幸寿会

〒255-000 神奈川県中郡大磯町西小磯 2466 番地

TEL 0463-60-3525 FAX 0463-60-3526

ホームページ <http://www.koujukai.com/oiso/>